第3回第2次厚木市教育振興基本計画策定委員会会議概要

会議の主管 教育総務部教育総務課
会議の日時 令和元年11月11日(月)午後3時から午後4時50分まで
開催の場所 厚木市役所第二庁舎4階 教育委員会会議室
出席者 第2次厚木市教育振興基本計画策定委員会委員10人
(事務局)
教育総務部長、教育総務課長、教育指導課長、社会教育課長、
教育総務課教育企画係長、教育企画係主査
傍聴者 なし

会議の概要は、次のとおりです。

《委員10人中10人の出席により、定足数に達し第3回委員会が成立》

第3回委員会

1 開 会

《委員長あいさつ》

2 案 件

(1)第2次厚木市教育振興基本計画の基本目標について

《事務局説明の概要》

資料1に基づき、基本目標「創造に代わる言葉」等について説明。

《質疑》

委員長 「創造」という言葉がどうかという点と、「安心」の置き所が前回会議の宿題として残されたことでした。今の事務局の説明では、「安心」は基本方針の方に入りたいということでした。また、「創造」に代わる言葉について、いくつか案を考えていただきました。まず、「安心」は基本方針の中に位置付けるということによろしいでしょうか。

委員 私は、「創造」に代わる言葉としては、「創生」「創出」を考えました。「安心」については、改めて考えてみると、良い視点を捉えていると思いました。狭い意味では、子どもたちの登下校や在校中の安心などがあると思いますが、大きくは教育の「保障」という捉えもできます。それには、教育環境の保障と教育機会の

保障がありますが、さらに教育で実現することの保障、つまり子どもたちが何を実現できるようになったかについての保障がとても大切です。学校には来ているけれども、学力的には十分でないまま卒業している、いわゆる形式卒業では駄目なのであって、もっと一人一人に合った形で、できるだけ的人格や学力を保障することが求められているのではないかと考えました。そういう意味で、計画の中で「保障」を打ち出すことも意味があるのではないかと思います。

委員長 「安心」についての御意見を頂きましたので、順番を変えて「創造」の議論から始め、後ほど「安心」について話し合いたいと思います。

委員 「創造」の意味の捉えがあまりに広がってしまうのではないかという前回の議論の中で、私も他の言葉で置き換えられるといいなと思い、二字熟語でぴったりのものがないか考えてみました。「挑戦」と「共生」は、地域の人たちや子どもたちの意識、心情面の教育ということになり、そうした思いや気持ちを十分培った中で、後は何が必要かと考えると、行動すること、実践していくことが大切なのではないかと思いました。「実践」も「創造」の中の一部なのだと思いますが、少し狭めて捉えて、「挑戦」と「共生」で得られた学びを「実践」に移していく。そういう意味で「実践」が良いのではないかと考えました。もう一つ、前回の会議で主権者教育の必要性について意見があったと思います。人任せ主義あるいは依存主義ではなく、まずは自分が中心となって自ら行動していかなければならないという思いを、子どもたちを始めとする厚木市民に学んでもらわなくてはいけないのではないかと、前回の意見を聞いて感じました。自分たちが能動的に、主体的に社会と関わり、物事や生活に対して実践していく生き方を目指すことで、築く力や共生の思いが育っていくのではないかと考え、あえて変えるとしたら「実践」がいいのかなと思いました。ただ、ちょっとぴったりとはいかないと、自分自身は感じています。

委員 イメージを言葉に表すのは難しいなと、私も思いました。「創造」という言葉は、すごく大事で良い言葉だと思いますが、「新しいものを創り出す」という意味が非常に強いと思います。ただ、今の世の中で、持続可能な社会を目指そうと言われるのは、今あるものをどう変えていくかというところが大切になっているからです。中央公園でいろいろなイベントをやっていますが、会場にいる人の中で、企画から主体的に参加している人はどのくらいいるのかなと、考えてしまいます。そういう意味で、「挑戦」「共生」の次には、「新しいものを創り出す」より「主体的に参加する」というところを入れたいなと思います。言葉としては「参加」ではなく、「参画」が一番近いと思いますが、子どもたちにとっては分かりづらい言葉になってしまいます。一緒に能動的に、主体的に一緒にやっていく人づくりを県内の中核都市である厚木市はやっていくべきだと思いますが、「創造」

は少し私のイメージと離れてしまい、別の良い言葉は見つかりませんでした。

委員長 関わる、コミットすることが大切ということですね。

委員 やっぱり、関わることで意識は高まりますよね。思っているだけではそこで終わってしまいます。

委員 主体的な学びができれば、必然的に行動につながると思います。

委員 これだけ高校や大学がある都市は、県内でもあまりないと思います。それだけの人と一緒にやっていくことができることを考えると、たくさんの方が参加するという良い言葉がないかなと悩みました。フリースクールでも、たくさんの方が参加すると、どんどん豊かなプランに変わっていきます。拒まずに受け入れることも大切だと思いました。

委員 「創造」の意味が広いので、「創生」「創出」を考えましたが、皆さんの意見から、行動にまでいかないといけないと私も感じました。

委員 基本目標ですから、やはり「行動」を目標に入れなければならないと私も思います。

委員 この計画は12年のものであることも重要です。10年先は、ますますメディアに依存する社会となっているはずで、自分で考えることをしなくなっていくと思います。昔は貧しかったのでいろいろ考えて工夫しましたが、今ではレシピでさえ検索して選ぶだけです。今の子どもたちの弱体化は、親が子どもを囲い込んでしまい、時間の使い方まで決めてしまっているような状態にあることが原因です。子どもは反発する力もなく、逆に従っている子はいいい子となっています。つまり、鍛える機会、失敗する機会が奪われているから、子どもの弱体化という問題が発生しているのだと思います。今後は、メディアのますますの発達により、弱体化の危険性は増していきますので、その対策として教育を考えなければいけないと強く思っています。

委員 おっしゃられるように、息子は漢字を調べるときに、スマートフォンで字を打ち込んで調べています。辞書で調べる方がより覚えられるにもかかわらずです。今のネットは簡単に教えてくれるので、考える機会が失われていて、便利だけど怖いと感じています。「創造」や「創出」のように、自分で考えて答えを出していく力がなくなっていくからこそ、私たちも考えなければならない問題だと思いました。

委員 辞書を引くということは、探索するということで、時間は掛かるけれども、スマートフォンで調べるより、内面の活動、働きかけが多いと言えます。このような状況だと、人はますます行動しなくなり、誰かがお膳立てしたものを選ぶだけになってしまいます。

委員長 他に御意見はありますか。

委員 基本目標は、2文字でなくてはいけないのでしょうか。

事務局 2文字にしたのは、コンパクトに表現できるからです。挑戦する力、挑戦する人、挑戦する心などと、表現することもできますが、あえてコンパクトに伝えられるようにしました。

委員長 他のことは、後ろの説明に込めればよいということですね。

委員 一つ質問があるのですが、「挑戦、共生、創造」の後に続く説明の内容は、既に固まっているのでしょうか。

委員長 まだそこまで決めてはいませんが、この方向性ということで進めてきています。

委員 そうであれば、私は「共生」と「創造」には、それほど違和感はありません。なぜならば、「共生」は最終的に共に生きていく力を育成するということなので、言葉としては良いと思います。「創造」は発展し続ける社会を創る力を育てる。つまり、発展し続けるということは、持続ではなく、更に伸びていこう、新しいものを創っていこうという思いがあるので、この「創造」にも違和感はありません。むしろ「挑戦」の方に違和感があります。挑み続けるためにどんな力が必要なのかと問うと、「たくましい力」であって、「挑戦」ではないと思うからです。もう一点、基本理念はこのようにかなり大きな枠組みで良いと思います。基本目標については、この基本理念をもう少し具体的にすれば良いのではないかと思いますし、さらに基本方針については、この目標を具現化させるためにどうすればいいのかということになりますので、このような細かい内容で良いと思います。文部科学省の道徳の学習指導要領の中には、こういったことを教えなさいという項目が書かれています。最初に何を身に付けるのかと言うと、自分に関することです。次は人との関わりについて学ぶこと、その次は社会について考えること、最後は自然について考えることと書かれています。そう考えると、今の案で良いのではないかと思います。我々が必要なものは段階を追って外に広がっていくと考えると、「挑戦」は自分のこと、「共生」は人との関わり、「創造」は社会全体

を考えていくということなので、基本目標として良いのではないかと思います。ただ、二文字でいいのかという問題については、もう少し柔軟に考えてもいいのではないかと思います。そうすると「挑戦」の問題も解決できるかもしれません。目標が「挑戦」と言われても、説明を読まなければ意味が分かりません。もう少し具体性が込められた言葉の方が、聞く者にとって理解しやすいと思います。だからといって、全員が理解する必要はないと思っています。高校、中学、小学校は、いろいろ出されている目標、方針を受けて、もう少し具体性を持たせた学校教育目標を作ります。だから基本目標などは全員が知らなくていいと思っています。

委員 私も最初に「挑戦」と聞いて分かりにくかったのですが、「拓く力」より更に強く打ち出そうという思いが事務局にあるのだと理解しました。まさに、くじけず挑み続ける人材が、これからのグローバルズムが進む時代に必要になってくる訳で、環境の変化の中でもしたたかにチャレンジし続ける姿勢が求められていると思います。だから「挑戦」を目標に掲げるのは良いと思います。

委員 今の考えを尊重するならば、「挑戦」の説明の中の「たくましい」という言葉はいらないと思います。

委員長 皆さんの意見を聴いていて、社会を創る力とは何かというと、具体的には「実践」「行動」というような言葉が出てきました。そうであるならば、そちらの説明を「創造」に入れてみてはと今感じています。「創造」を説明するのに「創る力」だけでは、足りないと思います。その力は、具体的に何かって言ったら、自分が実践すること、行動することだというような説明を入れてみてはどうでしょうか。

委員 いろいろ探ってみた中で、やはり「創造」がいいということであれば、簡潔な説明の部分に委員長が言われたようなことを入れていくことも考えられると思います。他力本願のようなことではなく、自ら関わっていく、自ら実践していこうとする力を育てていくという説明を加えるということですよ。

委員長 自らが生きる社会づくりに向けて、行動する力を育てるということだと思います。

委員 もう一つ、「創造」には、実践という側面の他に、先人が築いてきた知的遺産を継承する、更にそれに付加するという意味も含まれていると思います。

委員 一点、事務局に確認したいのですが、未来を担う人をつくるための教育振興基

本計画ですが、未来を担う人のターゲットは、どちらかと言うと、学校教育で学んでいる層ということになるのでしょうか。

事務局 教育委員会の仕事の半分以上は学校教育であるのは事実ですが、未来を担う人とは、全ての世代を対象としています。今回特に強調したいのが、何度でも学び直せる、成長していけるといふ部分でもあります。そのため、学校教育で学んでいる層に限定してはいません。

委員 そのことを考えると、「創造」でもいいのかなど思ったりもします。

委員 この委員会の役割は、目標、方針を決めることなので、各事業は教育委員会にお任せになるということですよ。私たちは教育への思いを述べることで、事業の参考にしていただければいいのではないのでしょうか。「創造」などの言葉も、この場で決めなくても、意見を言って参考にしてもらえればいいのだと思います。

委員長 おっしゃるとおり、事業化は教育委員会がすることですし、目標なども教育委員会の手続きを経て決まっていくものですね。では、そのようないろいろな意見を受けて、「創造」を基本目標にしていくのであれば、説明では単に社会を創るというだけでなく、自分が主体的に実践していくことを通して社会を創っていくという意味になるようにしてもらいたいと思います。それから、「挑戦」については、挑み続けると言っているが、もう一回「たくましい」と言い直している感じがあるというのは私も同意見です。そここのところは、事務局で検討していただき、確定してもらいたいと思います。皆さんこれでよろしいでしょうか。

一 同 (異議なし)

委員長 もう一つ、「安心」はどうでしょうか。

委員 最初にも言ったとおり、教育において重要な視点であると思いました。教育環境の保障と、教育機会の保障、それから学力、人格、人間力の達成値の保障というところの重要性があるからです。

委員長 分かりました。私は構造的なことを考えたのですが、挑戦をするにしろ、共生しながら生きるにしろ、社会に関わりながら生きていくにしろ、そのベースに「安心」は欠かせないものですよ。他の目標と並べるとバランスが悪いけれど、資料2の図の目標と方針の間を貫くように、フィルターとなるように位置付けたり、若しくは基本目標を囲むように置いたりするのであれば、その重要性を示せるのではないかと思います。挑戦する時も、共に生きる時も、自分らしく生きる環

境づくりというのは絶対に必要だと私は感じます。それが「安心」という言葉でいいのかは別になりますが、こういう言葉はあってもいいと思いました。

委員 三つの基本目標に安心を並べると違和感があるということでしたが、教育を実践していく上で、安心安全の内容は多岐にわたりますが、全ての子どもたちが安心して学べる環境はとても重要なので、「安心」は残した方がいいのではないかと思います。策定に当たって主に配慮する視点が5項目挙げられていましたが、その一つは「子どもを守る」という言葉で書かれていました。守るという中には、多岐なことが入ってくるので、安心安全な環境の整備という言葉は見えるようにしておいた方がいいと感じています。

委員 教育機会を持ちたかったのに持てなかった人の絶対数は少ないですが、少なからずいます。形式卒業の人も加えると、年を取ってから学び直したいというニーズは沢山あります。社会の変化が激しいから当然です。そんな時にいつでも学び直せる環境があることが大切です。学校というのは、誰もが通る道としてありますし、その前には社会全体の教育力というものも問われています。そういう意味から、教育機会の提供は広い意味での安心となるので、打ち出した方がいいと思いますし、打ち出すことこそが厚木らしさにもつながると思います。それに、厚木らしさは言葉だけではなく、実現したものが厚木らしさになっていくので、何が実行されるかの方が大事です。

委員長 「安心」については、事務局に今の議論を受け止めていただき、置き方、見せ方を考えていただきたいと思います。1本の基本方針としてしまうと、それだけで終わってしまうような気もするので、むしろ、どのような場合にも、この考え方が大切だということが伝わる形に工夫してもらいたいと思います。

委員 確かに目標の四つが並列でなくてもいいはずで、違う観点から押さえていくということも大切だと思います。

委員長 はい。では基本目標についての議論は、以上でよろしいでしょうか。

一同 (異議なし)

委員長 では、基本目標の内容を踏まえて、案件2の基本方針に入りたいと思います。まずは事務局から説明をお願いします。

(2) 第2次厚木市教育振興基本計画の基本方針について

《事務局説明の概要》

資料2に基づき、素案における基本目標と基本方針の関係、基本方針の内容等について説明。

《質疑》

委員長 10本の基本方針がありますが、前半が学校教育、後半は社会教育というイメージになっているということでしょうか。

事務局 方針3の人権教育と方針5の安心安全な教育環境の整備については、社会教育の分野も含まれますので、完全に切り分けられてはいません。

委員 教育関係の本を読んでいると、学校教育を充実させることでより良い社会を創っていくというような記述がよくあります。より良い学校教育を受けた子どもたちがきちんと社会を見つめて、より良い社会を創っていく、未来を担う人になると思いますので、そういう意味で方針の6番くらいまでに学校教育が中心に据えられていることは、うなずける気がします。

委員 私は逆で、明治の学制以来の学校教育は、50年足らずで国力を上げる大きな要因でしたが、今は1割の不登校傾向があり、学力の二極化を招いている現状があります。これに対するには、学校教育の枠組みだけではできないと思います。一方で、60代、70代の方が学べる場はなかなかないと感じています。教育振興基本計画では、どういう教育づくりをするかを考えるべきで、例えば杉並区や品川区のような先進的な教育をしたり、逆に長岡や会津のような明治以来の伝統的な教育風土を守ったりするような教育もあります。そんな中で厚木は、充実した子育て環境や幼児教育の街という側面がありながら、なぜ、その延長で義務教育や高校、大学とつなげていくことを方針の中に入れられないのかなと考えてしまいます。だから、学校教育だけの枠組みである方針4の教職員の指導力と働く環境の向上が、方針の一つとなっていることに違和感があります。これは、教育課題として行政が取り組めばいいことで、大事ではあるけれど方針に入れるようなものではないと思います。それよりも方針としては、子育てからつながっていくネットワークの中で70代になっても学べるような街を目指すという内容の方がいいと思います。あとは、これだけ立派な社会教育施設があるので、学校教育と連携してもっと使えないのかなと感じています。もっと言うなら、私なら方針の1で確かな学力の育成は掲げません。確かな学力が何を指すのかというときに、勉強ができることを望むのかということになります。学力自体の意味するところ

が難しいですし、もっと、学び続ける力の大切さを打ち出せないのかなと思います。新しい市役所ができたなら、アミューや図書館などの学べる施設も集まるので、学校教育だけではない可能性を感じていますし、これから厚木が取り組むべき重点課題ではないかと思っています。

委員 私学校教育を大事にして教育振興基本計画を進めていくべきではないかと思ったのは、社会教育の現場に携わる中で、本当に学んでほしい方がなかなか学ぶ場に来てくれないということがあります。ところが、義務教育は、基本的にはみんなが学校に行って、そこで自立した社会人になるための教育をします。その子どもが来てくれる場を充実させてしっかりと身に付けさせていかないと、社会人になってから学びの場に自分を置くということはなかなかできないと思います。だからこそ、学校や先生だけでなく、社会や地域が協力して学校教育を充実させるための方策を進めるべきだと思います。そういう意味では、今おっしゃられたことと同じではないかと思いました。

委員 なぜ教育という営みが必要かと言うと、言語能力などのベーシックな力を付けて、社会に参加できるようになるためです。今までもその成果はありましたが、これからの社会を見つめた時に、本当は学び方を身に付けることが大切だと思います。学校を終えて社会に出ても個性を發揮し、一生かけて人生を充実させていくために、そうした主体的な力を鍛えることが重要です。今までは、これだけを学べば一生通用するというようなものがありました。これからは社会が激変するので、学校で学んだことの中にはすぐに陳腐化してしまうものもあるでしょう。なので、学び続けること、学び直しは一生しなければならないはず。そういう生き方、コミットの仕方を培うことが教育の中心課題になってきていると感じています。そうすると、学校教育の在り方を捉え直す必要がありますし、その時は地域の教育力も一緒に考えなければなりません。方針を見ると、図書館が付け足しのように置かれていますが、教育の場としてもっと積極的な位置付けがされるべきだと思います。いつでも行けて本や映像などに親しみ、集まって討論し、いろいろなことを学べる社会に開放された施設となれば、素晴らしいと思います。こういう施設をいかすためにも、学校では子どもたちの言語能力、読解力、集中力、思考力を鍛える必要があります。よく企業の方は、受験を通して知識詰め込み型の教育になってしまっていると言います。そうではなく、知識を活用する教育、主体的に学べる人をつくる教育をしてほしいと言っています。まさにそれは時代が求めているものなので、厚木の教育振興基本計画にもそうしたものを組み込んでいければいいと思います。そういう意味で、基本方針は、10本などの数の問題ではなく、何を置くべきかを議論すべきです。学力や人権教育などの教育課題と、教育環境やシステムなどの場の整備について、整理できればいいのではないかと考えていますが、方針2の豊かな心と健やかな体は二つに分けた方がいい

と思います。また、方針3の人権教育は、主権者教育に置き換えた方がいいと思います。その他には、グローバル化と情報化が進んでいますので、国際教育と情報メディア活用教育を打ち出すべきだと思っています。あと、地域について深く多面的に学んでほしいので、地域教育も入れてもいいと思います。

委員長 情報技術の活用能力などは、今のカテゴリーで言えば、「確かな学力の育成」の中に入っていると思います。今では具体的な事業としては避けがたいものだと思いますが、基本方針としてしまうと、その下に入る事業のことを考えると、少し間口が狭くなってしまうという感じがします。

委員 私はもう少し大きな問題をはらんでいると思います。デジタル化により社会は急速に発展していますが、デジタルは1とゼロの二つの価値であらゆる情報を押さえしていく技術であることを認識する必要がありますし、装置を使いこなせることも必要です。もう一つは、情報収集、分析、考察、プレゼンなどの一連の能動的な学びに、情報活用能力は欠かせません。しかし、現実には、大きな情報格差が発生しています。その格差ができるだけ生じないように、全ての人が使いこなせるようになることを目指すべきだと思います。

委員 細かい話を始めると時間が足りなくなってしまうので、これから先10年後の学校をどうつくっていくのかについて考えることが必要だと思います。学校には、地域や教育委員会からいろいろな要求やニーズが入り込んできます。抱え込むと、何からやればいいのか分からなくなってしまいます。私は、厚木のコミュニティ・スクールの実態は知りませんが、視察した杉並は学校の人事まで学校運営協議会がやっています。地域の子どもに何が足りなくて、どんな先生が必要かということまで地域のニーズを吸い上げています。今でもITやアクティブラーニング、グローバリズムなどがどんどん学校に入ってきている中で、何でもかんでも学校に期待するというには気の毒だと思います。大事なのは、どういう学校づくりを進めていくのか、どう地域と協働してコミュニティ・スクールを進めていくのか、学校教育と社会教育の壁をどうなくすのか、これだけ整っている良い環境を活用して様々なネットワークづくりをどうしてやっていかないのかということです。こういうものを出していかないと、10年後の学校はもっと窮屈になってしまいます。なんだかんだ言っても最後は成績で取ることになっていて、その成績のつけ方も学校によって異なります。本当にそれで良いのかと疑問に感じています。学校教育が大事と言うなら、どう助けてあげるか、社会教育や地域とどう手を握るのかを考えるべきです。そこが見えてきたら、学校の先生や校長も楽になるし、地域の方もそういうことができるんだと感じます。これを見えるような形にして、様々な段階で夢を持てるようにすることが必要ではないかと思います。

委員長 事務局に質問があるのですが、方針2の豊かな心と健やかな体を分けるかどうかはともかくとして、方針3の人権教育の推進と共生社会の創造は、方針2の中に入り得ると思います。敢えて一つの方針として取り出しているのは、何か具体的にやっていきたいというようなことがあるのでしょうか。

事務局 現計画では社会教育でやっている人権教育が離れたところに置かれていまして、その人権教育と共生社会、インクルーシブ教育のところをまとめたいということで、このような形になっています。方針2の豊かな心は、青少年教育相談センターが担当している範囲のところは当てはまります。この二つをどう分けるかは、まだ確定していない状況です。

委員長 人権教育の推進は、すごく間口が狭いという感じがしました。共生社会の創造が前に出てくると、間口が広がるのではないかと思いました。〇〇の教育の推進というと、事業名に近い感じがします。

委員 私は、基本的にこの基本方針でいいのかなと考えています。教育委員会が担っている教育の^{はんちゅう}範疇というと、家庭教育はどうかと思いますが、学校教育と社会教育ですよね。教育委員会の部署もそう位置付けられているわけです。ただ、家庭教育は、学校教育にとっても社会教育にとっても外すことのできないものですから、いわゆる家庭、学校、地域社会の三つが網羅されていればいいのかと思います。基本目標が「挑戦、共生、創造」の三つの項目で掲げられるのであれば、例えば「挑戦」という目標を具現化する、支える方針は何かと考えると、基本方針は出てくると思います。委員長が言うように、そこの間口を狭くし過ぎてしまうと、教育委員会の各部署が困ってしまうと思います。だから、家庭では何ができる、学校では何ができる、地域社会では何ができるというように考えれば、この基本方針で網羅されているのかなと感じます。人権教育は共生社会の創造にも入ってくるし、豊かな心の中にも入ってくると思いますが、言葉として外せないのかもしれない。

委員 全てのあってはならないような社会の出来事は、人権教育から発生しているようなものだと思います。社会教育で扱う人権教育は差別と偏見からスタートしていましたが、今はそれだけでなく、切実な社会問題として出てきているのはいじめと虐待です。それをなくすために、しっかりと教育の中で人権感覚を磨いていくことは外せないことだと思います。ただ、方針は、間口が狭くならないようにした方がいいと思います。具体的なものは、しっかりと内容を押さえながら、施策の中に落としていくといいと思います。

委員長 優先順位の問題だと思うのですが、人が成長していく上で、人権が軽々に扱われているんじゃないかと厚木市教育委員会が感じていて、だからこそ、学びを通してこれを変えていこうという思いが強いのであれば、ここに出しておいていいのだと思います。むしろ、それが厚木らしさや売りになると思います。ただ、どこかに事業はあるので、その事業の入れ場所として方針をつくるというのは、逆だろうと思います。狭いなら狭いなりに、先鋭的に見せる意味はあると思います。

委員 人権教育というのは、社会に残存している差別意識をなくしていこうというものですよね。とても大事なことです。それだけで終わっては駄目で、人は平等だと憲法にあるわけですから、自分は憲法の主体なんだという教育をやってほしいと思います。誰もが憲法の前文を学べば、みんなが憲法の主体だと分かるようになると思います。

委員 方針の10番に地域文化の振興と読書活動の推進がありますが、降って湧いたように読書活動というとても具体的な言葉が出てくるのは、なぜでしょうか。

事務局 読書活動を強く打ち出したいという気持ちがありましたが、確かにここは急に具体的な表記になってしまっています。

委員 教育委員会の組織は社会教育と学校教育に分かれています。方針も両者を分けて考えなくてはいけないのでしょうか。

事務局 完全には分けられないので、両方が含まれる方針もあります。

委員 個人が身に付ける教育課題と、教育の場や環境の保障に必要なものが入っていれば方針としてはいいと思います。

委員長 基本方針の枠に収まらないことでも、これまでの議論は基本方針の説明などではいかしていただくことで、その趣旨を明らかにすることができます。事業を展開するときはその言葉を拾い上げていただいて、具現化に近づけてもらえればいいと思います。

委員 このように理念、目標、方針と掲げられても、市民にはよく分からないところがあると思います。ただ、内容を読むと、よく考えられ、練られているなど感じます。一つ一つの言葉の意味はともかく、第1次の計画を受けた形でこのような案となっているので、分かりやすくいいと思います。

委員 今までは文化活動とスポーツ活動が一つの方針でしたが、今回はスポーツが単

独の方針という案になっているので、よりスポーツ活動を推進していく上では、このような形がいいと思います。国際化とか情報リテラシーとか、大切なことは細かいところではたくさんあります。他にも少子高齢化、科学技術の発展とかもあると思いますが、お話にあるようにあまり細かくしていくと、ぶら下がる事業が窮屈になってしまうと思います。全体のつくりとしては目標3つ、10の方針くらいでちょうどいいのかなと思います。内容では、やはり学校教育が中心となると思いますし、人としての土台をつくる義務教育がしっかりしていないと、その周りにある社会教育もおぼつかないものになってしまうと思います。なので、つくりとしても学校教育から社会教育に広がっていくような今の形でいいと思います。

委員 目標や方針の細かいことについては、どう意見を言ったらいいか分からない部分はありますが、現状にはいろいろな課題があると思います。青少年を育成する事業で子どもたちと関わる中で、子どもたちが主体的にやってもらえるようなプログラムを組んでいこうという考えはあります。ただ、少子高齢化が進む中、育成者も世代交代が進まないという課題があります。教職員の働く環境問題もありますが、社会全体、サラリーマンも含めて、技術が進んだからと言って楽になることばかりではないと感じています。かえって仕事が細かくなり大変さが増しているところもあります。残業の問題も含めて、ある程度のところで切っていったり、分業したりしていかなければならないのかなと感じています。中学校には部活があつて、一所懸命な先生もいますが、限界もあります。その指導を受ける子どもも大変なところがあります。育成事業に中学生に参加してもらいたいのですが、部活が忙しくて参加できない子もいます。また、地域的な違いもあると思いますが、外国籍の人が増えてきていて課題となっている部分があります。ただ、こうした目標や方針が実際の問題に、どういかされるのかは分かりません。後は、ふるさと感じられる教育が必要だと思います。ふるさと感じるために大事な時期は小学校の時代なのかなと私は考えていまして、地域の伝統、文化、お祭り、お囃子などに主体的に触れることで、ふるさとへの思いが生まれてくるのだと思います。いじめの問題については、昔から大人の話聞いて子どもにも差別感が広がってしまうところがあり、やはり環境が大事なのだと思います。不登校についても、理由はいじめだけではありません。その子のいる環境によるものが大きいと思います。家庭では虐待の問題もありますし、知的障がいの子やその疑いのある子が一律に教育を受けられないという問題もはらんでいるので、これからの教育の方針を決めるというのは大変なことだと感じています。

委員長 一人一人の状況にカスタマイズする、光を当てる教育が今まで以上に大切になっていくのかなと、お話を聞いて感じました。それが人権のところに入るか、どこに入るのか考えさせられました。一人一人が安心して学べる教育の保障とい

う話にも深く関わってくるところだと思います。

委員 学習障がいの人と逆に天賦の能力を持った人が、今の教育では疎外されてしまっているところがあります。そういったところは改めていく必要があると思います。塾の機能と学校の機能をどう捉えるのかも問われていると思います。塾は受験の技術を教えるところとして必要な人が利用すればいいけれど、人間をつくるというところはやはり学校が担っている訳で、障がいがある人も高い能力を持っている人も、それを年齢で縛ってしまうことで、両者共に伸び損なってしまっているという問題があります。これからの 10 年では考えなくてはならないことだと思います。

委員長 法令の許す範囲でということになりますけどね。システムは法令に関わる場所もあると思います。

委員 あとは学校を社会の中の学校として捉えるのか、学校の補足をする役割として地域を捉えるのか、地域と学校を横断する形で自分のスタイルに合わせて生涯にわたり、学びたいときに学びたいことが学べるようにするのか。そういう中に博物館や図書館や見学ができる企業を学びの場として、座学に特化しないで屋外も学びの場としていくのがいいと思います。

委員長 話が広がったり、収縮したりしてしまったところはあったと思いますが、いろいろなお考えを出していただきました。事務局にはそのお考えを消化して、整理していただいて、また次回の会議をお願いしたいと思います。今日はここまでで議論を収めたいと思います。皆さん、ありがとうございました。では事務局に戻します。

事務局 貴重な御意見ありがとうございました。次回の日時は決まっていますが、1月以降の日程も調整させていただきたいので、都合のつく日を事務局に教えていただければと思います。次回については、今日頂いた意見を基に、基本目標を整理したのものと、基本方針も手を加えたものをお示ししたいと思います。

3 閉 会